

# 弊社が独自の方法で積み上げてきた技術

株式会社 三共エース 堀 江 秀 一

## ◎はじめに、弊社が独自の方法で積み上げてきた技術を一部紹介致します。

と、その前に、私はこの業界に携わる事、早いもので26年が過ぎ、沢山の方々に支えられここまで営んでくることが出来ました。周りの知識豊富な先輩方やベストコントロール協会関係者の方々に支えられ、極秘情報など教えて頂いたりと感謝しかありません。今後もご迷惑をかけることもあるかもしれませんが末永く見守って居て下さい。宜しくお願い致します。

弊社が独自の方法で積み上げてきた技術と言いましたが、弊社の社長が教えてくれた技術+私の【知識・経験・想像力】が会社の軸となり独自の発想から工夫を兼ね備えた対策となって参りました。弊社の目指してる施工は【早く綺麗で丁寧に】をモットーにです。

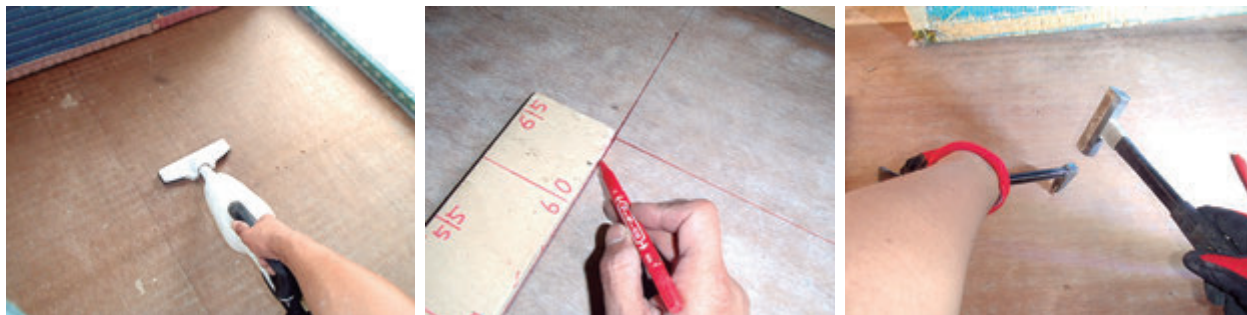
## ◎ねずみ・あらいぐま・はくびしん対策で捕獲や効率を上げるために弊社が行ってる作業の一環をお伝えします。

私が経験した【2階和室の畳上げ床板開口及び補強工事】(1)~(9)までの様子をお伝えします。

- (1)畳を上げたら板だった場合、極端に厚みが薄い場合以外は補強しなくても大丈夫です。
- (2)畳を上げたらコンパネだった場合、一般的な厚さ9~12mmはもちろん補強します。
- (3)畳を上げたらコンパネの24~36mmの場合、大引からの間隔が30cm以上でなければ大丈夫と思いますが、床を開口したので補強は入れます。
- (4)畳を上げたら表面上はコンパネと思わせといて床を開口したら板だった場合は補強しなくても大丈夫ですが場合によっては補強します。
- (5)畳を上げたらコルクボードだった場合、強度が心配なので、そっと畳を戻しておきます。
- (6)畳を上げたらコンパネで床を開口したら、ボンドで貼ってある場合、強引に剥がすと板が壊れたりしてしまう可能性があるので、切ってしまった溝にボンドを注入して養生テープを貼って畳を戻します。
- (7)畳を上げたらコンパネで床を開口したら、板が貼ってあって床板を開口したら、CF (Cushion Floor クッションフロア) が貼ってあってコンパネ床を開口したら、やっと1階の天井裏が見えました。3重構造のウエハース状態でかなり丈夫な床でした。
- (8)畳の上を歩いた時から違和感を感じていて畳を上げたらコンパネでコンパネの上を歩くと空洞音、これはたぶん根太レスか？ 鉄骨か？ と思い小さく開口やはり、鉄骨の上に直接コンパネが載せてある状態でした。危なく躯体部分を切断してしまう所 (丸のこの刃をダメにしよう) でした。
- (9)畳の上を歩いたら沈む様子は腐朽しているので上げると危険な場合があります。畳を上げたら戻らなくなる場合があります。

☆作業手順は、こちら①～⑩までの工程となります。

- ① 2階の和室畳上げ→②床板の表面を掃除→③床板を切る部分に印を書く→④釘を抜く  
→⑤丸ノコで床板を開口→⑥木くずの掃除→⑦床板が沈まない様に補強  
→⑧対策作業後床板を戻し掃除→⑨畳を戻し掃除→⑩完成



(手順①②) 上・左側の写真は畳を上げると畳クズやホコリ等があり靴下にゴミが付いてしまうので先に掃除している様子です。

(手順③) 上・中側の写真は直ぐに分かる大き目の定規を使用し切る位置にマジックで線を書いている様子です。(床を開口する時は用途にもよりますが小さく開けてしまうと作業性が悪いので少し大きめの650mm程の長さで開口しています)

(手順④) 上・右側の写真。印を書いた線の下に〈釘・ネジ〉がある場合や線の内側に〈釘・ネジ〉のある場合は抜きます。



(手順⑤) 上・左側の写真は畳のへりに丸ノコが当たった様子で、それよりも先に切れない場合、①先が丸まった特殊なノコギリを使用して切断するのか？(たった5cmを切断するのにそれなりに時間がかかってしまいます) ②畳を上げてそのまま丸のこで切断するのか？の2択でしたが、最近では便利な道具が多く存在し弊社ではマルチツールを使用して切断しています。マルチツールを使用するとたった5cmなら切断は数秒です。またマルチツールはとても便利な道具で切断だけではなく替え刃を交換すれば様々な物の切断・剥離・研削の3つがあります。

(1)切断(Cut) ①木材②金属(銅管)③釘(ネジ)④石膏ボード⑤カーペット・等

(2)剥離(Exfoliate) ①ボンド除去②コーティング剥がし③硬化した接着剤・等

(3)研削(Grinding) ①木材表面②金属表面③タイル目地の削り取り④和室漆喰の削り取り・等

上・中側の写真はマルチツールを使用して切断している様子です。

上・右側の写真は床を開口した様子です。床を開口しただけですと畳を戻して畳の上を歩いた時に違和感を感じてしまう可能性があるので必ず補強しています。写真の赤丸は間隔が広めなので中間にも補強を入れます。



(手順⑦) 上・左側の写真はタルキを切断する際に丸ノコガイド定規を使用すると真っすぐ切断する事が出来ます。タルキは長さ45cmだったら少し大きめの45.1か45.2cmくらい長めに切断すると突っ張るので固定しやすいです。切断したタルキの真ん中にマジックで線を書いてトンカチで線まで叩き入れます。叩き入れる時は大引と水平になる様に調整します。

上・右側の写真はタルキを叩き入れてる様子です。

下・左側の写真は水平になる様に調整している様子です。

下・中側の写真は床板とタルキをインパクトドライバーを使用して25か35mmのネジで固定している様子です。

下・右側の写真はタルキと大引を固定する作業でインパクトドライバーを使用して65～75mmのネジを斜めにして固定している様子です。(ちょっと斜め下から止められると理想的な角度)



下・左側の写真は6ヶ所補強した様子です。

(手順⑧⑨⑩)下・右側の写真は床板を戻し畳を戻し掃除している様子です。これで完成となります。



床の補強していると、お客様から丁寧に「ありがとう！」とお褒めの言葉をいただいております。信頼していただくと今後の白蟻だったり他の工事のお願いされる事も増えてきました。

今回、これを見れば直ぐに出来る【2階和室の畳上げ床板開口及び補強工事】でした。

他にも、お伝えしたい技術もありますが、この辺で…………。